

件名	令和 6年度 福井市障がい者自立支援協議会 第 3 回地域移行・地域定着部会 報告書		
日時	令和 6年 12 月 10 日(火) 14:00～15:00	会場	福井メディックス 2 階
出席者	委員:7 名 ※傍聴3名		
欠席者	福井県済生会:川端敏之氏、つぐみ福祉会:門睦子氏、みどりの森訪看:白藤真理氏、げんきの家:安田淳信氏、六条厚生会:安田純子氏、すいせんの里:暁美樹夫氏		
報告内容 協議事項	<p>1. 報告内容 部会委員の変更 令和 6 年度福井市障がい者自立支援協議会運営会議の報告について</p> <p>2. 協議内容 (1) 各 WG の進捗報告等</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">資料 1、2、3、4-1～4</div>		
	<p>1. 報告内容 部会委員の変更 〔市・岩原氏〕 地域移行・地域定着部会の委員変更についての報告。福井県地域生活定着支援センターの松岡伸郎委員が所属法人の人事異動のため、川端敏之委員に変更となる。 令和 6 年度福井市障がい者自立支援協議会運営会議の報告について 〔部会長〕 ・運営会議の報告を行う。各専門部会と相談支援事業所連絡会からの今年度の取組みについての報告を確認した。 その中で、居宅生活支援部会が例年実施している地域向けの研修と地域移行・地域定着部会が実施する研修が似ているのではないかと指摘を受けた。指摘については、病院・施設に長く入院・入所している人が地域に移り住むときのために住民の方に対する周知を諮る研修になるので趣旨が違うのではないかと伝えた。 再来年度に自立支援協議会を新体制に見直す話があるとのこと。本部会も分離、吸収、このまま独立なのか分からない状態ではある。 協議会会長の望月会長より、市が計画する地域移行・地域定着の目標値に対して部会の努力が結びつくと良いといった話が出た。改めて本部会では数値目標は立てていないが、長期入院・入所されている方が少しでも地域に戻れることができるよう活動できると良いとは思っている。本部会が意味あるものとなるよう、当事者に働きかけていくことも大事ではないかとも思う。 〔吉田隆氏〕 Q：市の障害福祉計画に数値目標の記載はあるのか？ A：市の計画の方に目標値の記載がある。</p> <p>2. 協議内容 (1) 研修開催 WG の進捗報告等について 資料 1 参照 〔吉田隆氏〕 ・報告書は、次年度に向けた課題を整理したものと考えてほしい。</p>		

11月29日に松原病院で研修を実施。部会からは、私と福井市：岩原氏、部会長：山崎氏の3名で伺った。研修は、精神保健福祉士・作業療法士・看護師を対象とし、部会で用意しているスライドを用いて実施した。

〔平鍋氏〕

Q：参加者は何名ぐらいいたのか？

A：参加者は13名。

(4) アンケート作成・実施・回収分析WGの進捗報告等について 資料4-1～4-4 参照

〔奥村氏〕～11月29日に松原病院で実施したアンケート結果の集計の口頭報告～

- ・前回県立病院の研修で使用したアンケート用紙を使用し実施。研修参加者13名のうち12名分を回収した。回答者は、看護師、作業療法士、精神保健福祉士。経験年数は2年から10年、20年弱の方と幅広い。地域移行に関わった方は、長く勤務している方は関わったことがあるが、5年未満だと関わっていないため研修での情報を聞けて良かった、もう一度社会資源のおさらいをすることができた、等の感想を得た。アンケート結果は、紙面にまとめ報告を予定している。今年度の病院、民生委員向け研修のアンケート集計から、変更点や課題など次年度に繋げられるものを情報共有していく予定。

〔森下氏〕

- ・民生委員向け研修のアンケート結果（資料4-2）を報告する。アンケート内容は、数年同じ内容で実施しているため、会場毎に並べ、その中で優位性のあるものを整理した。自立支援協議会の認知度に関して、きらら館17%・木田7%・北部26%・日の出38%となっている。この数字に対して優位性があるのは、研修の理解ができたかどうかの項目で差がでていいる。最も理解の回答が多かったのが日の出で自立支援協議会の認知度も最も高い。日頃から相談員と関わっていることが多いため、ベースとなる知識もあり、研修の理解度が高かったと考察できる。

障がい者との接点の質問で現在関わっている人がいる人や過去に関わっていた人がいるという回答は全体の約半数。困りごとについての質問に対しては、接点がないというのが30%、対応が分からない20.7%、情報が入ってこない21%、誰に相談していいか分からない4%となった。当初研修を始めた動機と重なると思うが、どうやって関わっていいのかわからない方が一定数いるため、今後の研修も民生委員の立場からどのように関わるとよいか、具体例などを盛り込んだ研修にするとより理解度も上がるのではないかと考察できた。

〔平鍋氏〕

- ・補足する。研修時の資料は、私と部会長で調整し実施したところもあり、研修資料が違うため理解力に差が生じたのかもしれないと感じている。

〔部会長〕

- ・研修に使用した資料が違うため、データが正しく取れなくなってしまい申し訳なく思っている。私の地元である木田地区に民生委員の知り合いが多く、色々聞いてみた。障害のある人の地域移行についてどのようなことを聞きたいか事前調査を実施した。その中で「あまり関わらんでな。」「地区に何人いるかわからないし。」という答えが多く、

初歩の研修から実施した方がよいと判断した。その中で皆は接していないというが、これは、日本の分離政策が障害者だけ集めようとなっていたことと、健常者・民生委員が障害者のことをよくわからず怖いと思う一方、障がい当事者も地域にでると怖いといったお互いが感じているところ。自立支援協議会の話については、理解に至らなかった。

(2) ピアサポート WG の進捗報告等について 資料2 参照

〔山崎康氏〕

- ・継続してグループでの取り組みを進めていく予定。

〔部会長〕

- ・安田氏より福井県が実施しているピアサポート研修にて案内を出して欲しいと依頼があり、ピアサポーター募集を行った。研修の中で取り組みたいという方が1名いたため、必要であれば今後連絡を取っていきたいと思っている。

〔森下氏〕

Q：ピアサポーターが実際に講演を行う場を探すことも部会が進めるのか？

A：宜しくお願ひしたい。また、昨年の県立病院での研修で、外来の方で行っている家族会に当事者の方が来てくれたらよいなという声もあったので、実現できると良いとは思っている。

Q：講演場所を検討する場合でもサポーターの属性を見てから、周知広報活動を実施した方が良いのではないかと？そこをどのように進めていくと良いのか？

A：現状は、精神疾患がある当事者の方である。講演場所を検討する際は、精神障害関係の場が良いと考えている。

(3) 地域の理解促進 WG の進捗報告等について 資料3 参照

〔吉田誠氏〕

- ・9月に研修を実施。どのようなことを聞きたいのか、事前に、今困っている事例を交えて話して欲しいといった要望を聞きながら実施したため、研修の中での理解も出来たのではないと思う。ただ、研修の在り方が一方的に伝え、質問を求める形の他、各地区が抱える事例を共有し、その中に専門職が入りアドバイスができる形の研修もあると良いのではないと思う。

〔森下氏〕

- ・研修の在り方としてベストであると私も考えている。開催に向けては物理的に大変ではあると思うが、地域ごとの個別事例を扱いながら課題を共有していくことが自立支援協議会の主旨であると思う。

〔吉田誠氏〕

- ・任期ごとに民生委員は交代するため、同じ地区での研修開催を継続する必要もある。

〔部会長〕

- ・リテラシーと福祉教育は違うものであると思っている。一方的な知識や相談連絡先の情報提供ではなく、森下氏も福祉教育の重要性を言われていると思うが、自分たちの地域にこんな課題があることに気づき、課題の解決に向け考え、結果として当事者が地域に

いることを知り、最終的に当事者と共に地域で暮らしていくことが促進できる社会であることが良いのではないかと思う。ただ、手間のかかる作業ではあるが、宜しく願いたい。

〔市：岩原氏〕

- ・民生委員向け研修について補足で、今後の予定をお伝えする。1月に行われる民児協の代表者会議にて、部会長と市で周知を行う予定となっている。

〔部会長〕

- ・例年12月に周知活動を実施していたが、予定が合わず1月に行おうと思っている。活動を続けて行かないと周知されていないと感じており、地道な作業を続けていく。
- ・前回、アンケート作成WGで話をしたが、来年度病院と入所施設に対し3～4年前に実施したアンケートの継続した形での実施をしたい。

〔坪田氏〕

- ・居宅部会の方でも民生委員への周知を行っていきたいと声があるが、どのように連携していけると良いのか。例えばグループホームについては居宅部会にあたるが、グループホームで落ち着かず別のグループホームへと移住を繰り返し、地域定着できないことが一つの課題となっている。移行支援の視点も大切だが、移行したあとの定着支援も居宅と一緒にできることかなとは思っている。来年度で良いが、居宅部会と一緒に考える場があると良いと思う。

〔部会長〕

- ・2年前にもみなさんに伝えたが、研修を病院・施設の職員が聞いた時に、これなら患者や入所者が地域にでることが出来るな、地域へ押し出してあげたいと思える研修をしてほしいとお願いした。ピアサポートについても当事者が活動していて仲間が増えていくような活動となって欲しい。そして、地域の理解促進については、民生委員に限らないが、研修を地域で行った結果、過去に地域が障害や病気で分けていた障害者を向かえ入れるように思える研修にして欲しい。そのため、年々研修内容を改良していければと考える。

〔森下氏〕

Q：民生委員は、障害がある方が住んでいる情報を把握することができないのか？

A：地域にいる方全員の把握は難しい。市としても個別支援計画、避難計画があり、対象となるのが手帳を持っている方で、施設に入所せず、病院に入院されていない方を把握している。ただ、手帳を持っていない方や自立支援医療だけ受けている方などは手帳を持っていないため、民生委員が把握できるかという点で難しい。

〔森下氏〕

- ・例えば精神障害に支援を限定したと仮定し、民生委員が受け入れられるのかと思っている。また、脳血管障害の場合は、180日までに退院しなければならないため、そのような動機があれば、当然働いている職員は効率よく患者を地域にだしていき、地域包括ケア会議で介護保険の中に組み込んでいこうとする流れがでるが、精神疾患となると弱くなるのではないかと？

〔奥村氏〕

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を受けるには本人、家族の同意が大前提になるため、地域の方に情報をオープンにするかどうかは非常にデリケートな問題として私たちも対応している。入退院を繰り返す方々の地域定着に向けた支援を組むために情報をオープンにする話かなと思う。自立支援医療の受給だけで手帳を所持しない方だと、そのような支援を必要としない場合も多い。いまだに隠そうとしたりする方が多い印象がある。 <p>〔森下氏〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院から退院するためには、地域が受け入れてくれるから退院するのではなく、本人が退院したいという動機が湧かなければ病院もサポートしづらいのであれば、ピアカウンセリングなどで本人に退院の動機づけを行う必要があるのだと理解した。 <p>〔部会長〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員より指摘を受けたのだが、介護保険では民生委員を呼ぶが、障害の会議では呼ばれない、声も掛からないとのこと。そこには、呼びたくない気持ちが働くのではないかなと思う。そこで、市民の持つ「精神疾患だと恥ずかしい。人には言えない。」という意識を減らしていける活動が出来ればよいのだなと思った。 <p>〔平鍋氏〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私が担当した相談ケースになるが、民生委員に相談しますかと尋ねると、「みんなに喋ってしまうような人に言いたくない！すぐ近所に広まってしまう！」と拒否する方や、民生委員と仲が良い場合は呼ぶこともあるなど、地域での関係性を見て参加の可否を検討しているのが現状であると思う。 <p>〔部会長〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私が相談員の際、自治会長から連絡を受けたことがあるが、知的障害の方が多かった。幼い時から町内の人も知っていて自治会長も知っている中で、困ったときに自治会長から連絡してくれるのといったことはあった。精神の場合は、ゴミ屋敷など問題行動がおきると連絡があるのかなと思う。 <p>〔森下氏〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が退院する時に、「この人帰ってきたらダメ」とは言わないと思う。本人が帰りたいたいと思えるような支援が必要なのだなと思った。 <p>〔部会長〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うつ病などが一般的となり、クリニックなども多くなり、偏見も減ってきたのではと思う。しかし、なかなか人に言えないということに問題があると思う。 <p>連絡事項</p> <p>〔市：岩原氏〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より1点、共有事項がある。現在委員を務めているつぐみ福祉会丹南事業所の門委員は、今後の部会参加や代理の選出も難しいということで次回以降も欠席となる。
<p>次 回</p>	<p style="text-align: right;">令和7年1月28日(火)14:00～</p>